

2002 年 12 月 16 日

「高サイクル新レオキャスト成形システムの開発」が

第 37 回(平成14年度)機械振興協会賞を受賞

宇部興産機械(株)(社長:若林敏夫)は、溶湯を鋳造する従来のプロセスに比較して生産性及び品質が高い自動車の重要保安部品の成形に適した「高サイクル新レオキャスト成形システム」を開発し、このたび財団法人機械振興協会(会長:豊田章一郎)より第37回(平成14年度)機械振興協会賞を受賞した。この表彰制度は、機械工業技術に関する研究開発、機械工業における新製品の開発、製品の品質・性能の向上などで顕著な業績をあげた企業及び研究開発者を表彰するもので、本年度で37回目を迎える。本年度は機械工業関係団体、学会、協会から36件の業績が推薦され、6件が受賞した。表彰式は、12月4日(水)に東京・芝公園の機械振興会館ホールで行なわれた。今回の受賞技術である新レオキャスト成形システムは、固液共存状態かつ高サイクルで成形する成形法であるために、巣の無い、機械特性に優れた健全な鋳物製品を得られることから、鍛造法の代替技術としても将来が期待される高品質・低コストの方法である。2000年より本格的に商品販売を開始し、昨年からは国内、欧米において採用され始め、欧州においてはすでに同法により生産された自動車部品が量産されている。近年、地球環境保護、省エネルギーの観点から自動車の軽量化が活発に検討されている。本システムは自動車の重要保安部品の軽量化、コストダウンに大きな効果を有することから、宇部興産機械は本システムを搭載したマシンを積極的に拡販していく計画である。



機械振興協会賞授賞式



ニューレオキャストマシン



第 37 回機械振興協会賞受賞

関連リンク先：機械振興協会賞

<http://www.jspmi.or.jp/>